

未来への協働

ニュースレター No.19

<https://kyodomirai.org>



2026年8月1日(土)

発行 未来への協働

〒577-0023

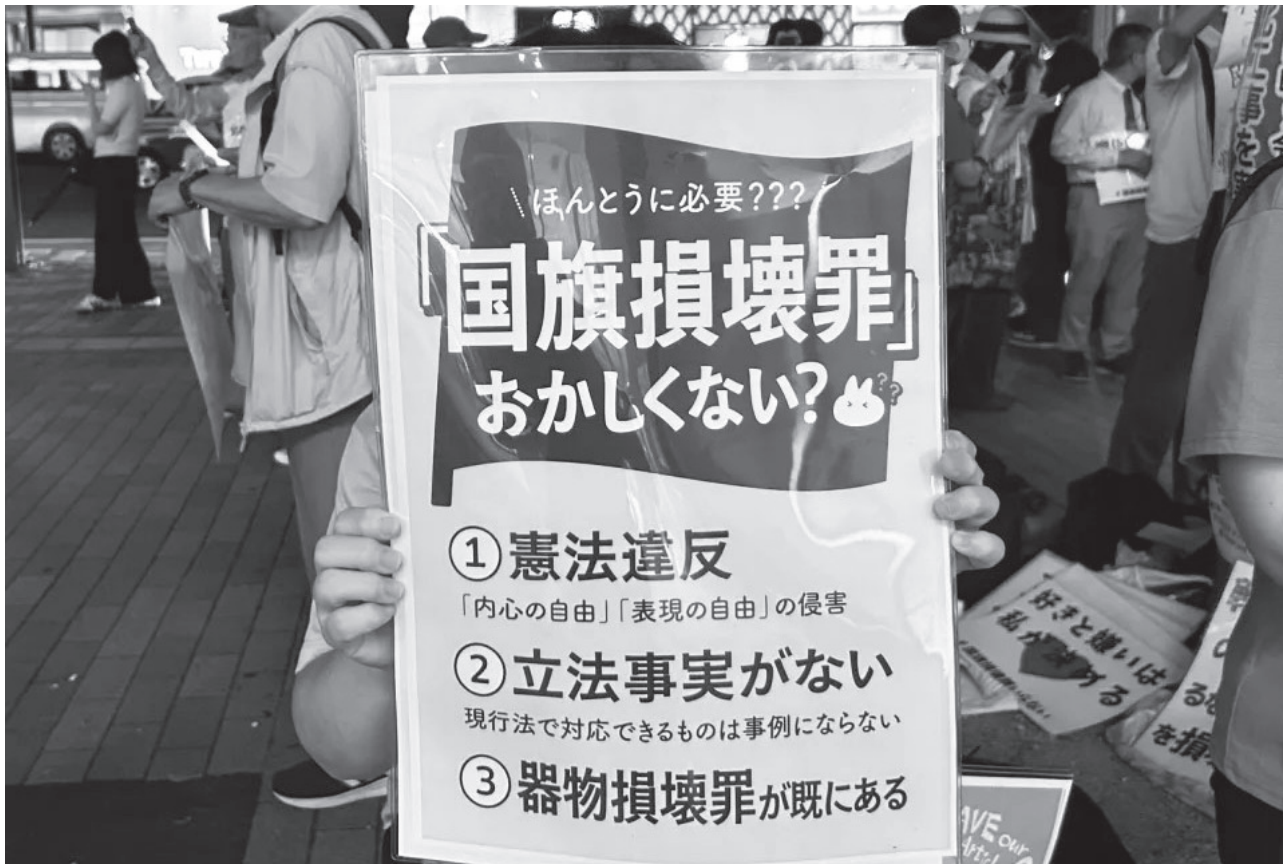
大阪府東大阪市荒本2-14-5

電話/FAX (06) 4306-3512

郵便振替 00940-8-213061

Email: miraihenokyodo@gmail.com

毎月1日発行 頒価 200円 (送料別)



神戸市三宮のマルイ前では緊急スタンディングが行われ、参加者が市民アピールした = 7月10日

「国旗損壊罪」はいらない

憲法違反の国旗損壊処罰法が自民、維新、国民、参政の賛成で成立した(7月17日)。14日の参院内閣委員会では、参考人として意見を述べた中央大学法学部の橋本基弘教授は、「史上初めてのあからさまな政府批判禁止法だ」と批判した。また、神戸大大学院の木下昌彦教授は、法案が政治的言論をも規制対象とすることなどから憲法違反にあたると指摘し、このような法律の成立は「自由な言論の喪失の端緒」になると警鐘を鳴らした。

民主主義の根幹を揺るがす悪法を強行する高市政権に対して、10日、「国会前アクション めちゃくちゃな政治に抗議します」が行われ、2万7000人

が参加。この日は少なくとも44都道府県136カ所でデモが企画された。神戸市三宮のマルイ前では、「国旗損壊罪いらない! 緊急スタンディング」が行われ80人が参加。若い世代が多く集まり、リレートークやコールが響きわたった。

「『国旗』日の丸を好きか嫌いかは自分で決める。国が決めるな」「誰が誰を訴えるのか、曖昧で恣意的に過ぎる悪法だ」「憲法9条に、国防を明示すると言っている。それを許せば、自衛隊が戦争に行かざるを得ない」「どうしても高市政権に我慢できなくて参加した。みなさん、つながっていきましょう」など、参加者がそれぞれの思いをアピールした。

誰もが原発事故の責任から逃れられない 「脱原発」を訴える曾根俊太郎さん

6歳のときに福島県で原発事故に遭い、新潟県に避難。大学生となった現在、「原発事故は終わっていない、過ちをくりかえしてはならない」と訴えている曾根俊太郎さん。いま必要なのは「自分の思いを語る場所」だという曾根さんを招いた学習会が大阪府高槻市内で開かれた(6月7日、主催はたかつき保養キャンプ・プロジェクト事務局)。

保育園で被災 事故直後から自主隔離

曾根俊太郎さんは2004年、福島県で生まれた。現在22歳。県立六日町高等学校を卒業、現在は京都産業大学法学部で学んでいる。2011年の福島第一原発事故当時、曾根さんが住んでいた街は福島第一原発から直線距離で60キロのところだった。

2011年3月11日、東日本大震災が発生した時、6歳だった曾根さんは保育園にいた。大きな揺れがきて部屋の中のものは倒れ、泣き出す子もいた。先生の指示で園庭の真ん中にみんなで避難した。その日は珍しく雪が降った。すごく寒かったので、先生が講堂から持ってきた布団をかぶって温まっていたのを覚えている。迎えに来た父親の車の中から被災した街を見、子ども心に「すごいことが起きたんだ」と感じた。

原発事故が発生した時に、曾根さんの両親はすぐに部屋の窓の隙間などを塞いで外気から遮断した。曾根さんと兄は家の中に閉じ込められた。両親はチェルノブイリ原発事故の知識があり、小出裕章さんの本を読んでいた。原発事故後に何が起き、何が危険なのかが分かっていた。

曾根さん兄弟が一週間ほど自主隔離されていた間も、余震が続いておりダイニングテーブルの下に布団を敷いて過ごした。テレビは緊急地震速報を流し続けており、「直ちに影響はない」という記者会見の言葉が繰り返されていた。自主隔離している間は、ヨウ素剤代わりにワカメやコンブを食べさせられた。一方、曾根さんの街には避難指示が出ていなかったため、多くの子どもたちが親たちと共に給水車の水や支援物資をもらうために1~2時間も外

で並んで待っていた。このとき原発事故で発生した放射性プルームが曾根さんの街に向かって流れ込んでいた。放射能に関する知識がなかったために、被ばくした子どもたちがいた。



曾根俊太郎さん

新潟へ避難 木内みどりさんとの出会い

発災から9日目に曾根さんの両親は避難を決意した。避難したのは新潟県のある町だった。当時その町の町長や新潟県知事が避難の受け入れを表明していたが、避難先の決め手となったのは「風向き」だった。父親は事故直後から風向きに関する気象情報を調べていた。当時、政府がSPEEDI(放射能拡散予測システム)のデータを公表していなかったの、ドイツの気象庁が出しているデータを見て、関東方面に放射能が流れているのを知った。そこで親戚がいる関東ではなくて、全く伝手のない新潟に避難することを決めたという。

避難後、曾根さんにとって大きな転機となったのは女優の木内みどりさんとの出会いだった。木内さんは福島原発事故後、「自分は以前から原発の危険性を知っていたのに、声に出してこなかった。事故には自分にも責任がある」という思いから、反原発の集会・デモなどで積極的に活動していた。それを知っていた曾根さんの母親は、避難先で開催されたロックフェスティバルにゲスト出演していた木内さんを訪ねていった。「声を上げてくださってありがとうございます」とお礼の言葉を述べるためだった。その時いっしょにいた俊太郎さんに木内さんが声をかけた。「夏休み長いでしょう、もしひまだったらうちに遊びに来ない?」

11歳の曾根さんは代々木上原にある木内さんの自宅を訪ねるためにひとりで上京した。木内さんと

過ごす中で、「自分が行動して発言することの大事さ」を教わったという。曽根さんは「これまでは聞く側の人間だったけど、伝える側の人間になろう」と思うようになった。残念ながら木内みどりさんは2019年11月18日に亡くなった。

高校生平和大使に

そして出会ったのが高校生平和大使だった。1998年、インドとパキスタンが核実験を行ったとき、被爆地ヒロシマ・ナガサキの声を世界へ届けるために、長崎の女子高校生2人がニューヨークの国連本部に派遣された。その後、毎年、全国から高校生が選出されてジュネーブの国連欧州本部に派遣されている。2021年、曽根さんは24代の高校生平和大使に選出された。その主な活動に「高校生1万人署名活動」がある。これは、平和大使に選ばれなかった子どもたちが、「自分たちも何かしたい」「署名を集めて国連に送ろう」ということで始まった。それが今は高校生大使の主要な活動の一つとなっている。曽根さんが通っていた六日町高校では学校側が「校内で署名活動をしていいよ」と認めてくれた。

「原発ゼロ」を実現した台湾 日本との違い

昨年5月、曽根さんはノー・ニュークス・アジア・フォーラム(NNAF) in 台湾に参加した。参加国は、フィリピン、台湾、韓国、日本、スイス、インドなど。台湾では1978年に原発が運転開始。当時の台湾は戒厳令下だったので、反対の声を上げることは困難だった。しかし1980年代に戒厳令が終了すると反原発運動が急速に拡大し、市民や環境団体がデモや抗議を実施した。そして2011年、福島原発事故を受けて、脱原発(非核家園)方針へと政策転換が行われた。2025年5月17日、最後の原子力発電所・第3原発が停止して、台湾は「原発ゼロ」を達成した。

NNAFの若者交流会で曽根さんは、各国で活動している若者たちと交流した。日本での原発事故のとらえ方は「過去に起きたこと」だが、外国では違っていた。彼らは、「自国の原発が事故を起こして、将来、日本のような被害を受けるかもしれない」と「未来のこと」としてとらえていた。それは曽根さんにとって「大きな気づき」だった。

なぜ日本ではそのようなとらえ方ができないのか。「福島事故の記憶の風化」と言われるが、なぜ「風化」が起きるのか。「みんな別に無関心というわけ

じゃなくて、自分の思いとか考えとか、自分の感じていることを語る場所がないから、自分の意見を言語として発することができないからではないか」と曽根さんは強く感じている。

新潟では、世界最大級の出力を誇る柏崎刈羽原子力発電所の6号機が今年に再起動し、4月16日から営業運転を再開した。これをめぐって県民投票の条例制定を求める署名が14万筆超も集まったが、新潟県の花角知事は「県議会に問う」とし、自民党が圧倒的多数を占めている県議会で否決された。

台湾では国民投票が行われ、「原発ゼロ」になり、社会全体で議論している。新潟では原発が再び稼働し、その判断は知事や議会など県政の中枢にいる人たちに委ねられて、住民投票もなかった。「これが台湾と日本の大きな違いだと思う」と曽根さん。確かに、日本では「国策に市民が声を上げて止められない」という風潮があるが、それは台湾も共通している。台湾が脱原発を実現できたのは、政権が方針転換をしたからだ。その根底には40年を超えて続けられてきた力強い市民運動があった。だから「日本も諦めずに市民運動を続けていくしかない」と感じたという。

言い訳は通用しない

曽根さんは、「若者の対話の場や自分の意見を発信できる場所を作りたい」という。「NNAFで出会った脱原発という志を持った仲間たちとの継続的な連帯が必要だ」とも。

ノーと言わなければ、イエスと判断されてしまう世の中では、「おかしいことにはおかしいということが大事だ」と。「ビリョクだけどもリョクじゃない」、高校生平和大使のスローガンだ。「それはどんな活動にも共通する。主権は私たちにあって、私たちが決めることができるはず」だと。もしまた原発事故が起こったら、「国から押し付けられたから」という言い訳は通用しない。責任から逃れられる人は一人もいない、これが曽根さんの伝えたかったメッセージだ。

この日は高校生・大学生はじめ、原発に関する学習会には初めてという人など多彩で幅広い世代が参加した。大学生の一人が「今日は曽根さんの話を聞けて良かった。原発に関心を持っている人は多いと思うので、もっとこういう機会があれば」と話していたのが印象的だった。(山本 康)

私のヒバク

「思い出すのも嫌だ」

1945年8月6日、8時15分。突然、「轟音と強烈な閃光」を受けた。「熱い!!」と思った瞬間、10メートルほど吹き飛ばされた。頬の皮膚が「べろっ」と垂れていた。私は、旧制中学校の3年生、15歳だった。

その日は建物の疎開作業に動員され、爆心から東南へ1.4キロの鶴見町にいた。頬だけでなく耳、首、肩も火傷をしており、学生服は焦げ、胸の名札の白布が墨の黒字だけ焼け焦げていた。広島は、粉塵の底だった。酷いやけどやケガをした、大勢の亡霊のような人が逃げてくる。女子学生たちはセーラー服もぼろぼろ、髪や腕、胸が焼け^{ただ}爛れ、無惨だった。下宿していた広島駅近くの叔母の家へ、ひたすら歩いた。やけどのため、熱が出始める。叔母と3、4歳だった従弟と3人、広島が燃えるのを茫然と眺めた。誰かにもらったトマトが、やけどの身体にとっても美味かった。

翌7日、40キロほど離れた町に、叔母と私の母の実家がある。叔母と駅までトボトボ歩き、やっと満員の汽車に乗ることができた。やけどで熱が出始め、着いた駅から母の実家へ5キロほど、炎天下を歩くのが辛かった。途中で町の病院があり、「入院させてもらおう」と思ったが、驚いた。病院の周りは、全身焼け^{ただ}爛れた大勢の人たちが倒れ、寝かされている。仕方なく、また母の実家へ歩いた。

祖父母が、やけどに腫れ^{はただ}爛れた私を見て驚き、すぐに寝かせ、蠅がたかりウジが湧かないように蚊帳を吊ってくれた。寝ていると、祖父母たちのヒソヒソ話が聞こえる。「知人を捜しに広島へ行き、帰った人が3日目に亡くなった」…、私に聞かすまいと気を遣っているが、耳に入る。「事後に入市した人が、そうなのだ。直接直爆した私は、もう助からない」と覚悟し、先生や友人に遺書を書いた。

あの日、中学1年生だった弟(竹田^{まさろう}雅郎、写真)も作業に動員され、爆心から500メートル付近にいた。翌日から、父と伯父が焼け跡を捜し回った。やっと「笹の模様に見覚えがある弁当箱」を見つけ、遺骨代わりに辺りの砂を入れ持ち帰った(1995年に資料館に寄託)。弟は、倒れながら1.5キロほど

歩き、友だちの実家のお寺まで逃げたらしい。2日後の8日、苦しい息で「天皇陛下万歳」を唱え、絶命したという。本川沿いの「二中慰霊碑」には、全滅した1年生、弟を含め321名の名前が刻まれている。



竹田雅郎さん

「核廃絶のために、ぜひ証言を」と声もかかったが、思い出すのも嫌だった。あまりに酷く、悲し過ぎるのか、到底言い尽くせないと思うからか。どう



焼け跡で見つかった雅郎さんの弁当箱＝広島平和記念資料館所蔵

して「書く気」になったのか、自分でもよく判らない。「誰かに読んでもらう」つもりもない。15歳のあの時、弟と同じように死んでも不思議ではなかった。「以後は余生、オマケの人生だ」と思ってきた。ゲンバクは一生、封印するつもりだった。それにしても80歳とは、長いオマケだった。そろそろ限度を感じたのかもしれない。

誰もが、平和を願ってきたはずだ。それなのに、多くの国が核兵器を持つ。「総すくみ」で核戦争は簡単には起こせない。しかし、持っていれば使う国もあるかも知れない。「使わない」と、誰が保証できるだろうか。虚しい、悲しい。ゲンバクは思い出すのも嫌だ。(竹田昭義、2010年9月記)

被爆をいっさい語らなかった長兄昭義から、「誰に見せるつもりもないが…」と、この一文を託された。その半年後に、福島第一原発の重大事故が起こる。兄は「あれは原爆と同じ、大変だ。政府、東電、テレビ発表は嘘だ」と危機感を顕わに、毎日のように私にメールを送ってきた。兄は2011年8月13日に没した。享年81。

広島第二中学1年生だった次兄雅郎は被爆時、本川に吹き飛ばされた。自力で這い上がって同級生の家まで逃げ、そこで8日に亡くなったという。12歳だった。父がそのことを知ったのは8月下旬頃で、次兄の遺骨や遺品は残っていない。弁当箱は実家の土蔵に置かれていたが、1995年に長兄が広島平和記念資料館に寄贈した。(雅博)

被爆 81 年 8・6 ヒロシマ平和の夕べ

とき：2026年8月6日(木) ところ：広島 RCC 文化センター 主催：8・6 ヒロシマ平和の夕べ
開場：12 時半 開会：午後 1 時 参加費 1000 円(高校生以下、福島避難者、障がい者は無料)

今年は、広島・長崎の被爆から 81 年。高市首相の側近が「日本は核兵器を持つべき」と発言し、被爆地・被爆者は怒った。私たちは、「ノーモア、ヒロシマ・ナガサキ」「核廃絶」を、8月6日の広島から発信し続けてきました。今年の「平和講演」は、核の戦後史などを専門にし、広島・長崎の被害、核開発と実験・事故などによる被災の究明、「核へのレジスタンス」をかかげる高橋博子さん(奈良大学教授)に。「被爆証言」は、14歳のとき被爆した梶本淑子さん。「フクシマ」から、3・11「人権としての避難の権利」を追求してきた森松明希子さんです。[問い合わせ] 090-2063-9452



●被爆証言 梶本淑子さん

1931年、広島市に生れ。14歳のとき、爆心地から2.3キロの飛行機部品工場で被爆。足と腕に大けがを負った。3日目に父と出会う。爆心地を歩き回った父は1年半後に原爆症で亡くなる。2019年、広島県を訪れたローマ教皇に、被爆者を代表し証言。



●平和講演 高橋博子さん

アメリカ史およびグローバルヒバクシャ研究を専門にする。太平洋核実験、米国公立文書館の史料や被災した人びとの証言を検証し、隠されてきた核開発、

広島・長崎への原爆使用、核実験、原発事故による核被災の実態を解明してきた。奈良大学教授。日本学術会議連携会員、日本平和学会理事、日本パグウォッシュ会議運営委員などを務める。



●フクシマから 森松明希子さん

原発賠償関西訴訟原告団代表。2011年「3・11」当時、福島県郡山市に在住、東日本大震災・東電福島原発事故で被災、2児を連れ関西に母子避難。

2013年、国と東電を提訴、原発被害者訴訟原告団・全国連絡会共同代表を務める。避難者の会 Thanks&Dream を主宰、国内外で原発事故被害者の人権について訴え続ける。

声 9条を変えさせない闘いを

「自民党の積年の悲願である自主憲法を実現する時が来た」という高市の言葉。彼らにとって、今の平和憲法はアメリカと GHQ に押し付けられたものということでしょう。私からすれば、日本の国民に押し付けたものではなく、戦争責任者である天皇ヒロヒトと軍国主義者に押し付けたものであり、国民民衆は、戦争の反省として素直に受け入れ、今日にいたっているのです。平和憲法策定作業は、アメリカが単独で勝手に作ったのではなく、幣原喜重郎などの政治家なども参加してつくったのです。もう二度と戦争をしないための憲法なのです。

高市自民党の本当の狙いは、1945年の日本の敗戦以前の明治憲法下を思わせる「自由に戦争が出来

る国」です。そのためには今の9条が邪魔で仕方がない。だから「自衛隊」を9条に明記して、変質させようというのです。安倍晋三は、「自衛隊を明記してもなにも変わらない」と嘘を並べました。自衛隊明記は、自衛隊に自由な羽根を与え、戦後憲法の抑制の下にあった自衛隊が変貌して国民民衆を威圧し、戦争をぶっ放す存在になるということ。非核三原則の見直しや小泉防相の原潜保有発言など核の軍事利用に踏み込もうとしています。緊急事態条項はあのナチスから学んで、独裁政治を狙っています。力をこめて言います。高市自民与党は、国民民衆のことなど本気で思ってなんかいない。それは透けて見えています。「時が来た」とは民衆の立場からいうと、高市自民・維新が政治の舞台から追放される時のことです。戦争絶対反対、9条改憲絶対阻止で大きく声を上げましょう。(長崎・道端民男)

警察・検察は謝罪を

京都 3 事件・関生弾圧控訴審が結審

連帯ユニオン関西生コン支部（関生支部）の「京都 3 事件」（ベスト・ライナー事件、近畿生コン事件、加茂生コン事件）の第 1 回控訴審が行われた（7 月 3 日、大阪高裁）。昨年 2 月、京都地裁での 3 事件判決では、懲役 10 年を求刑されていた湯川裕司委員長と武健一前委員長に無罪が言い渡された。検察側がこれを不服とし控訴していた。

この日、労働組合つぶしを許さない京滋、兵庫、東海の会の仲間をはじめ、多くの労働組合、市民団体、市民が集まった。12 時半から、大阪高裁前の西天満若松浜公園で事前集会が開かれた。細野直也関生支部書記長は、「大阪高裁はしっかり事実をみて、憲法と労働法に沿って判断してほしい。この『事件』は、刑法で裁かれるものではない」と述べた。

検察の証拠調べ請求を却下

報告集会で関生支部弾圧弁護団の位田浩弁護士は、「検察側が事実取り調べ請求を行ったが、私たち弁護団は必要ないと反論した。裁判官は検察側が申請した証拠調べ、証人について全て却下した。今日で全ての審議が終わり、弁論終結になった。判決は 10 月 5 日、午前 11 時から。一審判決が覆る可



能性はゼロと確信している」と話した。

関生支部湯川委員長は、「この弾圧の過程で労使協調していた理事がつぶされ、仲間が減り疑心暗鬼になった。権力の罪は非常に大きい。控訴審でしっかり無罪を勝ち取って権力の責任を追及したい」と。この後、多くの労働組合、市民団体から「連帯して共にたたかう」とアピールがあった。

労働組合つぶしの大弾圧を許さない実行委員会の小林勝彦代表（写真上）は「関生支部は組合員は減ったが、運動は活発だ。共に運動を発展させ、判決公判を迎えよう」とまとめた。

この後、「警察、検察は、事件をつくるな！」「警察・検察は憲法 28 条を守れ！ 謝罪しろ」「労働運動は犯罪ではないぞ」とシュプレヒコールあげ、大阪高裁を周回するデモ行進を行った。（高崎）

不当解雇を撤回せよ

日東電工株主総会に抗議

日東電工の株主総会で、韓国オプティカルハイテック労組の支援闘争が行なわれた（6 月 19 日、大阪市内、写真右）。会場のグランフロント大阪ビル前に、全労協、おおさかユニオンネットワークをはじめ多くの労働組合、市民らが全国から集まった。2022 年、日東電工は 100% 子会社・韓国オプティカルハイテックの工場を閉鎖し、労働者を全員解雇した。韓国オプティカルハイテック労組の 7 名が日東電工との話し合いを求め、解雇撤回を要求している。当該の韓国オプティカルハイテック労組員の株主が、「議決権行使書」がないことを理由に出席が認められなかったことに会場内外から抗議の声が

上がったが、日東電工側は態度を変えなかった。株主総会に出席した支援の株主は、「話し合いをする考え



はないのか。グローバル企業として恥ずかしくないか」と追及した。この総会で「日東電工の新役員体制が代わり、赤城達哉・新社長となった。韓国オプティカルの子会社責任者をしていった人物だ。

おおさかユニオンネットワーク代表の西山直洋さんが、「株主は議決権行使書がなくても会場に入る権利があるが、この 3 年間、韓国の不当解雇された労働者の出席を認めていない。日東電工の不誠実な姿勢を社会に訴え、解決するまで闘っていきたい」とこの日の行動を締めくくった。

平和教育に歯止めを かける文科省に物申す！



「国旗等損壊罪」法案が自民、維新、国民そして参政党の4党で共同提案された。曰く「国旗を大切に思う一般的な国民の感情の保護」とのことだ。国旗・国歌(「日の丸・君が代」)に対する、国民・市民の考え方、感情などは千差万別である。

日本国憲法第19条「思想と良心の自由」、第20条「信教の自由」、21条「集会、結社、表現の自由」…。これら個々人の心の自由を認めず、全体主義的に強制するなどもってのほかだ。しかも、個人が所有する国旗にも適用するという。まさにファシズムへの回帰ではないか。閣僚らが国会での答弁の際や記者会見で登壇する際に必ず国旗に黙礼してい

る。その光景に違和感やある種の恐ろしさを感じるのは、私一人ではないだろう。

この法案が強行されれば、かつてのように「御真影」への黙礼や「宮城遥拝」を怠れば、処罰されるようになるかも知れないというのは杞憂だろうか。そんな「戦前回帰」を許すわけにはいかない。

「私は、日の丸は好きですが、この法律が成立したら国旗を破り、燃やし、その画像を投稿したくなると思います。そんな日本なら、存続する意味のない国だと思えるからです」(新聞コラムより)。他にも高市首相、内閣による、「国家情報会議」(日本版CIA)設置法案、「スパイ防止法」、さらに「武器輸出三原則」改定など、反動的な法案、政策が目白押し。6月23日、「沖縄慰霊の日」には、高市のカンペ棒読みの挨拶に(安倍の時より、さらに大きな)抗議の声があがった。沖縄だけではない、私たちもそれに続き、「高市倒せ」の闘いを前進させなければ…。(修)

「強襲揚陸艦」が市民の前に 神戸市の海上自衛隊阪神基地で

海上自衛隊による「サマーフェスタ in 阪神基地隊」が開かれた(7月5日、神戸市東灘区)。当日基地前では「戦争するな」「憲法変えるな」「自衛隊員を戦場に送るな」等を訴え、アピールとスタンディング行動が行なわれた(神戸港の軍事利用を許さない会呼びかけ)。サマーフェスタには雨天だったが、市民、自衛隊員、家族6千人が参加した。

基地内の会場では、海上自衛隊の輸送艦「にほんばれ」と「くにさき」(写真右)が接岸。艦船の一般公開と陸上自衛隊、海上保安庁、警察、消防などの車両の展示などが行なわれた。特に注目されたのが、海上自衛隊阪神基地を母港とする「にほんばれ」だ。2400排水トンで輸送性能は数百トン。車両10数両または20フィートコンテナ10数個の積載が可能とされる。浅瀬や港湾設備のない砂浜に乗り上げ、車両や物資を直接陸揚げできる。

陸海空自衛隊が共同運用する輸送艦「にほんばれ」は、6月20日から30日かけて九州・沖縄で行われた日米共同訓練「レゾリュート・ドラゴン」に参加している。共同訓練では、「離島防衛」などを想



定した輸送や戦闘訓練が鹿児島県奄美市で実施された。報道によれば、「にほんばれ」から地对艦誘導弾の発射装置を載せた車両が下ろされたほか、「地对艦誘導弾の発射準備までを訓練した」という。「にほんばれ」は単なる輸送艦ではなく、「強襲揚陸艦」としての機能を有しているのだ。

京阪神地域でも、足元で戦争準備が始まっている。京都・祝園で新弾薬庫が建設され、弾薬庫にはミサイルも含まれる。それらのミサイルが、海上自衛隊・阪神基地隊から、九州・沖縄に輸送される。政府・防衛省は神戸港や神戸空港も軍事利用する体制を進めている。「戦争するな! 憲法を変えるな!」の声を大きくしていかなければと痛感した。(庄)



日暮れて途遠し ⑩

では、どうすればよいのか (中)

西谷文和『なぜ中東で戦争が終わらないのか』を読む

イスラエルでは人口の 70% がユダヤ人で、そのユダヤ人のみ徴兵制がある。男性は 18 歳から 3 年間で、女性は 2 年間で。女性の軍人、兵士は米国ははじめ世界中にあるが、徴兵で動員されているのは他にはクルド兵ぐらいではないか。

ガザは福岡市ほどの小さな面積に 250 万人が住んでおり、世界一の人口密度の高さと言われている。ネタニヤフは「ハマスのみを狙っている」と発言しているが、ロケット弾、戦車砲、空爆を使って「ハマスのみ」などありえない。血まみれの子ども、引きちぎられた遺体……動揺するイスラエル人たちに「あれはハマスがやった」とネタニヤフは弁解し、それどころか、「我々の軍はガザ市民に食料や医薬品を配り援助している」とデマ宣伝する。戦場ではないものはそのまま騙^{だま}されるだろうが、戦場に送られた兵士は、「真実」を目の当たりにする。それどころか、その悲惨は自らの行為がもたらした結果であると知ることになる。

PTSD うつ病 自殺 酒とドラッグ

西谷さんは本の中で、国会議事堂前の二張りのテントのことを紹介している。「兵士の PTSD を放置すれば次の自殺者を生むであろう」と大きな横断幕。テントの中にうつろな目をした元兵士がいて、話を聞く。3 日前に友人が自殺したという苦しい思いの中で彼は語った。「多くの兵士が精神を病んでいます。6 カ月前からここにテントを張って、私たちを追い込んだ政府に対して抗議しています。約 2 万人が PTSD で苦しんでいます、それは政府のメンタルケアを受けている人だけですから、実際にはもっと多いと思います。多くの兵士は、あれ程酷い戦争をさせられたのに、感謝の言葉もなく、受け取るものが少ないと嘆いています。多くの家庭が崩壊しています。離婚も多いし、子どもは父親を怖がっている。一日中ベッドで寝てたり、悪夢にうなされたり。薬や酒を大量に飲む。多くの人がアルコール中毒。今までの自殺者は 75 名ですが、これは公式

に認められただけの人数ですから、本当はもっと多いです」。

ユダヤ社会は想像以上に壊れている。2025 年には



イスラエル当局によって破壊される UNRWA 本部の建物 = 1 月 20 日

イスラエルで 46 名の女性が殺害されて、しかも犯人は夫や兄など家族がほとんどである。酒やドラッグで家庭内暴力。また、女性の帰還兵はトラウマで子育てができなくなると報告されている。

国連難民救済施設を破壊

トランプは、国連の米国の分担金を大幅にカットした。2023 年 10 月 7 日戦闘以降、イスラエルはユダヤ企業で働くパレスチナ人を一斉解雇した。生存の危機はガザだけでなく西岸にも及ぶ。新しく難民も増えた。しかし環境は劣悪で、ある小学校の避難所では、200 名に対してシャワー室は一つ。トイレも一カ所 (便器が四つ) でももちろん水は出ない。

そんなパレスチナ人の現状を把握しているネタニヤフは、東エルサレムの国連パレスチナ難民救済事業機関 (UNRWA) 本部をブルドーザーで徹底的に破壊した (2026 年 1 月 20 日)。国際社会からどれだけ非難されても、「トランプに守られているから、何をやっても許される」と考えているのだ。破壊された UNRWA 本部前にいたユダヤ人は、「国連は難民支援と言いながらハマスに食料を届けてバックアップしていた。破壊されてハッピーだ」と語った。悲しい現実だが、これがユダヤ人の多数派の姿である。

平和と和解を求めるユダヤ人の闘い

イスラエル人のアラブ人蔑視と激しい憎悪に絶望的な気持ちに陥るが、希望を持てる事実を西谷さんは紹介している。いずれもユダヤ人側からの正義の決起である。

ユダヤ人による暴力的な入植地拡張に反対して、同じユダヤ人がパレスチナ人を守る団結小屋を建てて闘っているのだ (三里塚闘争を彷彿とさせる)。他にも、「イスラエル & パレスチナ平和運動」の存在。経済産業大臣の自宅前にユダヤ人女性がひとりで座り込む闘い (グレタ・トゥーンベリのように) など。これを次号で紹介したい。(朽木野リン)

平和憲法と戦後民主主義 1

桃太郎の歌とトランプ

「最後まで桃太郎の歌聞いてみた 四番五番はトランプの歌」(朝日歌壇、2026年4月)

遅めのさくらの咲く4月のはじめに、こんな詠を見つけた。「桃太郎」の四番、五番ってどんな歌だったっけ。

『ももたろう』の四番は、「そりゃ進め、そりゃ進め、一度に攻めて 攻めやぶり つぶしてしまえ 鬼が島」。五番は「おもしろい おもしろい のこらず鬼を 攻めふせて 分捕物ぶんとりものを えんやらや」とある。ちなみに、六番は「ばんばんざい ばんばんざい お伴の犬や 猿雉は 勇んで車を えんやらや」である。

なんだこれは。なるほどトランプなのだ。ベネズエラへ、イランへ、なんの理由もなく侵略戦争行為に手を染めたトランプだ。さらには、「西半球は俺のもの」とキューバへも侵略しようとしているトランプだ。お伴の犬は、ひょっとしたら高市首相になるのだろうか。そうだ、「世界中に平和と繁栄をもたらせるのはドナルドだけ」と持ち上げた高市早苗だ。猿や雉はその取りまき連か。

芥川の「鬼ヶ島」

芥川龍之介に、『桃太郎』という短編小説(1924年)がある。これは、一般的な「桃太郎」の昔話とは一線を画する。芥川がこの作品を通じて表現したのは、当時の日本社会や帝国主義の風刺である。

物語の舞台となる鬼ヶ島は、昔話で描かれるような恐ろしい場所ではない。自然豊かで平和な楽園のような美しい島で鬼たちは、踊りや琴の演奏、詩の朗読を楽しみ、争いごととは無縁の日々を過ごしている。家族と共に自然と共存するその生活は平穏そのものであり、鬼たちは子どもたちに「人間は怖い生き物だから、近づかないように」と教えていた。

桃太郎はどうにもならない悪人である。家来の犬、猿、雉も互いに軽蔑しあい、仲が悪い。利益だけを求めて桃太郎に従う。桃太郎は彼らにキビ団子を「半分だけ」渡し、鬼退治に協力させる。桃太郎一行は互いに反目しつつも、桃太郎が提示する「鬼の財宝」という報酬に釣られて鬼ヶ島へと進んでいく。そして、桃太郎は「日の丸」の扇を打ち振って、

犬、猿、雉に号令をかける。「進め！進め！鬼という鬼は、見つけしだい一匹残らず殺してしまえ！」

「桃太郎部隊」

は、平和な鬼ヶ島を一方的に侵略し、逃げまどう鬼を追いまわし、犬は鬼の若者を噛み殺し、雉は鋭いくちばしで鬼の子どもらを突き殺す。猿は猿で、われわれ人間と親類同士の間だけに、「鬼の娘を絞め殺す前に、必ず陵辱ほしいまを恣にした」のである。

ともあれ、鬼ヶ島の酋長は平和な島がなぜに侵略され、こうも暴虐の限りをつくされたのか、まったく合点がいかない。おそろおそろ、桃太郎にその訳を問う。桃太郎は悠然と答える。「日本一の桃太郎は犬、猿、雉の三匹の忠義者を召し抱えたが故に、鬼ヶ島へ征伐に来たのだ」。理性も理屈も何もない。なるほど、トランプなのだ。

故郷に凱旋した桃太郎は、「必ずしも幸福な一生を送った訳ではない」。鬼の子どもは一人前になると番兵の雉を噛み殺し鬼ヶ島に逃げ帰り、鬼ヶ島で生き残った鬼たちが、海を渡ってきては、桃太郎の家に火をつけたり、かれの寝首をかこうとしたりした。いわば、テロ事件の続発である。

さらには「寂しい鬼ヶ島の磯には、美しい熱帯の月明かりを浴びた鬼の若者が五人六人、鬼ヶ島の独立を計画するため、椰子の実に爆弾を仕込んでいた。…黙々と、しかし嬉しそうに、茶碗ほどの目の玉を赫(かがや)かせながら」と。

芥川版『桃太郎』の終盤には新しい桃太郎が次から次へ、桃の実から生まれてくることを暗示している。そして、この暗澹たる物語は閉じられる。

壊れゆく戦後

芥川が描く桃太郎の物語は、力の行使で、他者の権利や尊厳を簡単に無視する帝国主義そのものであり、それが新たな反発と対立を生み出すことを示している。それは現在の帝国主義の批判に通ずる。

いま目の前で「戦後」が次々と壊れている。その速度に驚愕する。平和憲法と戦後民主主義が、ものの見事に憎まれ、蔑まれ、ドロドロにされている。トランプを「平和の使者」などと呼ぶ高市政権によってである。(嘉直)



桃太郎の鬼退治

書評

『傷の声 絡まった糸をほどこした人の物語』
斎藤塔子・著 医学書院 2024年 2200円+税

背景の物語に耳を傾ける

過酷な家庭環境による重い精神病を抱え、その短き人生を綴った女性の自叙伝である。享年26歳。

彼女を支え続けた夫からの伝言。「2024年5月8日、妻・塔子はこの世を去りました。自分の本を出したいという彼女の夢を叶えるべく、出版社へ出版の継続の依頼をしました。…… 関連するつらい記憶のある人へ…生きてください」

長期反復的なトラウマ体験

「飢えている。渴いている。私の心はいつもこの渴望が満たされることはないという絶望でいっぱいである…… だったらいっそ早く死なせてくれと切に願う」「この私の状態を湯船に例えることがある。子供時代に大人から無償の愛情をたっぷり与えられる事で、ひび割れることなく綺麗に湯船は完成するが、私は愛情よりも恐怖と不安ばかり与えられて、ボロボロの湯船しかできあがらなかった」

著者は精神分析医のマイケル・バリントが提唱した「基底欠損」という概念に「私のことだ」と感じる。「基底欠損」とは、幼少期の愛情や養育環境の不足により、人間関係の土台となる基本的信頼感が形成されていない状態を指す。

実家で過ごした地獄の日々、それによって負った精神疾患に悩まされて、オーバードーズ(薬の大量服用)、アームカット、浴びるほど酒を飲んで自傷を重ね、希死念慮を紛らわす。

発病をもたらした過酷な家庭環境

父の虐待

貧しい家庭ではない。高給取りのサラリーマンである父は家に十分な金を渡さず、病弱な母に「パートに行け」と命ずる。そしてパート収入の少なさを罵倒する。

「子供は明治時代風に育てる」と宣言し、家父長制を導入して絶対的支配権を押し通す。テレビを見ることも禁じる。ささいなことに激昂し、自分の気が収まるまで何時間でも怒鳴り続ける。著者には2

歳年上の兄がいるが、父は兄の首根っこをつかまえ、大声で怒鳴りつけて勉強を教える。その怒鳴り声は襖一枚の隣室まで響き、まだ幼い著者は恐怖に震えながら、悲壮な思いで勉強する。幼稚園はキ

リスト教系で、「怒鳴り声が聞こえなくなりますように」と毎日、神に祈った。以降、7年間祈り続け、小学校4年生時に皮肉にも願いがかなう。突発性難聴を患い、右耳だけは治らず難聴の障害が残った。精神的に追い詰められた発病だったのだろう。

中学3年の時には、父に激しく怒鳴られ、著者がテタニー発作を起こして倒れ込むまで怒号が続いた。テタニー発作とは過呼吸による電解質異常で手足がけいれん、収縮、硬直する発作である。以降、著者はこれが習慣化して学校でも発症し、登校したとしても保健室で過ごすことになる。

母の虐待

このような父親でも、母親にキャパシティがあれば、子どもたちがここまで追い込まれることはなかっただろう。ところが彼女の母は、夫の支配と抑圧へのやるせない憤怒を子どもにぶつけることで自分の精神を保とうとした。物心ついた頃から、母は父への愚痴や悪口を著者につけた。子どもを育てる精神的な力が不足していた母は、ささいなことで子どもを掃除機で殴ったり、その食事を抜いたりした。

著者が小学3年のときに、母はがんを発症(後に再発)する。患者本人もつらいだろうが、余裕のない母は、「塔子がストレスをかけるから死ぬかもしれない病気になった」とヒステリックに著者を責めた。さらに「子どもが居なければ離婚できたのに」「あんたたちを産まなきゃよかった」と繰り返した。

小学5年のときには、料理も洗濯も掃除も全て「女手」たる著者が担うようになる(あえてサラリと表現したが、サラリと読んだ男はクズだ)。兄は家に帰ってこなくなった。

父は毎日浴びる如く酒を飲んだ。母はかげで「酒



で早く死ねばいい」と。著者も「肝臓を悪くして早死にすれば、家は幸せになる」と。絶望的な家庭環境の中で、著者は両親二人共の死を願うようになる。「死ね、死ね、死ね」と毎日何時間も。中学になると「家族を殺すか、自分が死ぬか」と、特に父に対する殺意は強烈な強迫観念になっていった。

兄妹は二人とも精神科にかかるようになる。あるとき、父の自室で抗うつ剤や睡眠剤が入った薬袋を見つける。家族全員が壊れていたのだ。

自傷とオーバードーズ

薬の大量服用。大量飲酒。アルコールは心の傷みから離脱する最強の鎮静剤である。意識は幽体離脱していく。次にアームカット。袖を肩までまくり上げ、カミソリを当て力一杯引く。「オーバードーズは胸をプレス機でつぶされるかのようなひどい感情を意識ごと飛ばすのに役立ち、アームカットは痛みや流れる血の赤さと温かさによって、一時でも苦しい意識を体の感覚へとそらしてくれる」。ほとんどの人々が分かっていないが、自傷は苦しみから逃れるため、「生きる」ためにあるのだ。

医療従事者は、こうやって運ばれてくる患者の苦しみから意図的に目を背け、理解することを拒む。その結果、患者が再び自傷しないように「拘束」することが「治療」になる。患者の手足や胴を拘束具でベッドに縛り付け、身動きできないようにする。拘束によるエコノミー症候群で何人も死んでいる。便も尿もオムツの中にする。人間の尊厳を引き裂く「治療」だ。「助けて欲しい」という彼女の叫びは、「反抗」とみなされ、拘束具をさらにきつく締められる。

入院先の病院でアームカットしたとき、彼女は「この苦しさをわかって欲しい」と、哀しいまでの愛情を求めている。「あなたにはわからない」と泣きながら看護師に訴えると、「うん、わからないよ」と突き放され、わずかな期待が裏切られたことに、虚しさが押し寄せた。これが精神科治療なのか！

おそらく「懲罰」というものが存在するのは精神科だけだろう。著者は以下のように願う。「24時間、数カ月間も縛られている摂食障害の患者さんにはそうではなく、栄養を管から入れるときと、その後の1時間だけにしてあげて。抑制帯を付けるのは全身ではなく、胴バンドで十分な患者はいっぱいいるよ。それなら手を動かせるからずっと自由になる」。どうしてこんな簡単なことが日本の精神医療では無視

されるのか。人権感覚の無さ！

困難な闘病のかえ

絶望的な家庭から脱却し自立を求め、著者は得意な勉強にかける。成績は優秀で学校でも評価されていたが、父親は受験勉強のための金は一切出してくれなかった。15歳のときに「パパ活」という言葉をネットで見つけ、「売春の世界」に引きずられていった。繰り返すうちにアームカットがひどくなった。一方で、「このどん底から抜け出してやる」という悲壮な思いから、ひたすら勉強に打ち込んだ。

その執念で彼女は東京大学にストレートで合格した。教養部の時に精神看護学を学びたい、看護師になりたいと看護部を選んだ。しかし、看護師として働き始めると、子どもの頃のトラウマが出て、上司の叱責も多くなっていった。複数の作業を同時進行できない、抜け漏れが多い、ということだった。

PTSDと言われてきた著者は、ここで初めて自分の病気の特徴を知ろうと、病院で知能検査や発達検査を受ける。言語理解や知覚推理は高いのに、作業記憶や処理速度という指標は低く、顕著なバラツキがあった。医師は「生育歴の影響でこのような特性が出た」と診断した。虐待などの子ども時代のトラウマ体験によって、発達障害ではないが、それに似た障害がでることがあるらしい。「発達性トラウマ障害」という概念を提唱する専門家もいる。

最後に

どこまでが正常で、どこからが精神病なのか。発達障害と精神障害の境目はどこなのか。まだまだ精神医学の世界は発達途上であると思わざるを得ない。私(筆者)も精神障がい者のひとりだが、子どもの頃の家庭環境が斎藤塔子さんと似ており、読みながら考え込んでしまった。私もボロボロの「湯船」しか築けなかったのだろうか。

最後に国立精神・神経医療センターの松本俊彦医師の言葉を紹介したい。

「残念ながら私たちは死を介してしか学べない事柄がある。彼女は本書においてこう叫び続けている。行動の逸脱を拘束して管理するのではなく、背景にある物語りに耳を傾けよ、と。そんな当たり前の精神医療を願って、著者は、『他人事としてではなく、自分自身の体験を真摯に真摯に言葉にし』たのだ」

(当間弓子)

まい・しよと 

被爆81年 旧陸軍「被服支廠」

広島は戦前、旧陸軍第5師団、陸軍船舶部隊などが置かれ、「軍都」と呼ばれた。宇品港に近い、出汐町にレンガ壁の「被服支廠」が残る。軍服や軍靴などを製造、軍需物資を集積し戦地に送る補給の拠点だった。

いわば「加害」のまち。「だから原爆が投下された」という説もある。しかし、侵略戦争に与したのは日本中どこもそうだった。アメリカの目的は、トリニティ実験ではわからなかった「人口35万人の都市に投下すれば、どうなるか」というデータ収集にもあっただろう。投下はネバダ砂漠での実験からわずか3週間後だった。(雅)

川柳

利秋

家系図は すべて怪しい人ばかり
サークルの怪しい人のリストです
ボーリングのお誘い受けて大事件
デイサービス五目並べを誘われる
このデイは風呂も食事ありません
フレイルから未知の世界へ突き進む
浮かぶなら お花畑の見える池
勇気出し一人で登る裏の山
亀石が迎えてくれた水源池
四十五分 週に一度のヘルパーさん
体操し 自分で切れた足の爪
人生を刻んだ顔が ここにある
鶴彬とトマトラーメン食べた夏
加齢とは未知のかたまりだと思う
断捨離です 遺品整理じゃありません

インフォメーション

■8月23日(日)

玉城デニー知事応援集会 in おおさか

時間：午後2時～午後4時半

会場：大阪市西区民センターホール
地下鉄千日前線西長堀駅 徒歩1分

講師：具志堅隆松さん

「終わらない戦後処理と新たな戦前」

メッセージ：玉城デニー沖縄県知事

主催：8・23 応援集会実行委員会

■8月29日(土)

しないさせない戦争協力関西ネットワーク
総会&記念講演会

時間：午後1時半 開場

総会 午後2時～午後2時20分

講演集会 午後2時半～午後4時半

講師 杉原浩司さん

会場：エルおおさか5F・視聴覚室

地下鉄・京阪 天満橋駅 西へ徒歩10分

参加費：800円

主催：しないさせない戦争協力関西ネットワーク

三里塚の産直野菜

コリンキーとは？



「サラダかぼちゃ」というのが届いた。「コリンキー」というとか、野菜の説明にも「三里塚でも初めて作った」と書いてある。直径10センチくらい、きれいな黄色、「熟す前に収穫するため、(柔らかく)皮ごと食べられる」とあった。レモン汁、塩少々、オリーブオイル、コショウなどで和えるらしい。
※三里塚「産直野菜」は有機無農薬。「お試しセット」あり。(野菜のお問い合わせ) 三里塚関西実行委員会 (TEL/0799-72-5242)